

第 20 講 『 運動麻痺 』

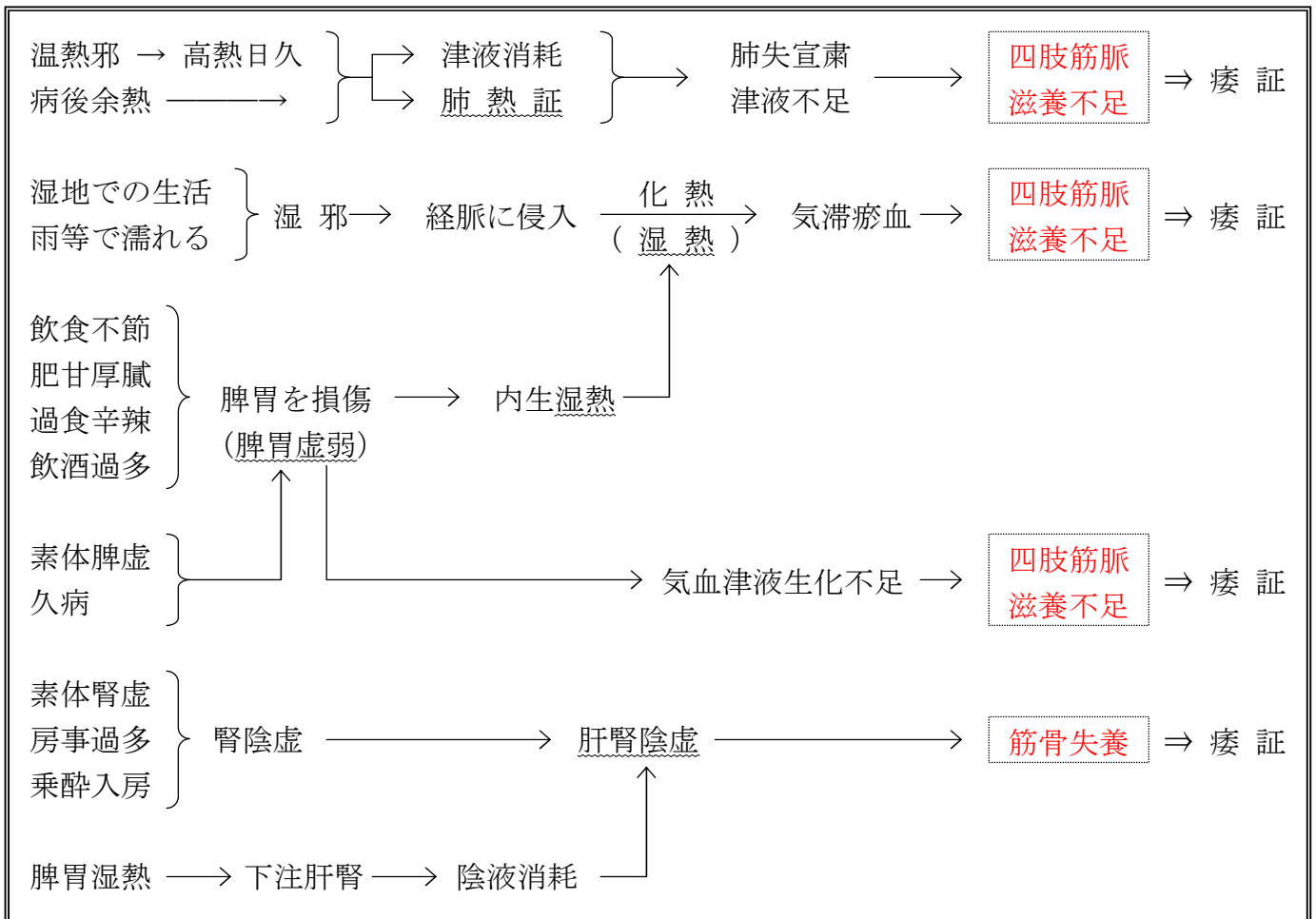
：東洋医学では運動麻痺を「**痿**（証）」の一部であると捉える。また「**四肢不用**」「**四肢不举**」等とも呼ぶ。下肢におこる痿証のことを「痿躄」と呼ぶこともある。

* 痿：四肢の筋脈が弛緩し、軟弱で無力、長期間持続すると筋肉の萎縮や運動麻痺を引き起こす病証。

【 分類 】

- 実 証：肺熱、湿熱
- 虚 証：脾胃虚弱、肝腎陰虚

【 病因病機 】



【 弁証の要点 】

(1) 発病の緩急と虚实

- 発病が急で発展が早い、麻痺が見られるが筋肉の萎縮は顕著でない・・・実証
- 発病が緩慢で病程が長い、進展が遅く四肢が弛緩し、萎縮が顕著・・・虚証

【治療原則】

“ 治痿者独取陽明 ” 《素問・痿論》

(1) 後天を補う：肺の津液や肝腎の精血等はすべて脾胃の生化に頼っているから。

(2) 陽明経の熱を瀉す：“取陽明”とは陽明経の熱を取るとの解釈。

【症状と処方例】

- 基本選穴 -

【上肢】

	経絡	意義	取穴部位
肩髃	大腸経	実：疏通経絡 虚：潤養筋脈	肩関節の前方、肩峰と上腕骨頭の間
曲池	大腸経		肘窩横紋の外方で、上腕骨外側上顆の前
手三里	大腸経		曲池穴の下2寸、長・短橈側手根伸筋の間
合谷	大腸経		第1・2中手骨底間の下、陥凹部。第2中手骨より
外関	三焦経		陽池穴の上2寸、総指伸筋腱と小指伸筋腱の間
頸・胸夾脊	奇穴		* * * * *

【下肢】

	経絡	意義	取穴部位
伏兔	胃経	実：疏通経絡 虚：潤養筋脈	膝蓋骨外上角から髌関穴に向かい上6寸
梁丘	胃経		膝蓋骨外上角から髌関穴に向かい上2寸
足三里	胃経		膝を立て、外膝眼穴の下3寸
解谿	胃経		足関節前面中央、前脛骨筋腱の外側陥凹部
環跳	胆経		股関節横紋の外端、大転子の前上方陥凹部
腰夾脊穴	奇穴		* * * * *

1. 肺熱

[症状] 始めに熱が出て、熱が退いた後突然四肢が軟弱で無力になる。皮膚は乾燥し、喉が渇く、咽喉が乾燥し乾咳が出る、痰は少ない、小便短赤、大便秘結。舌紅苔黄、脈細数。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
尺沢	肺経	清熱潤肺	肘窩横紋上、上腕二頭筋腱の橈側陥凹部
肺兪	膀胱経		第3・4胸椎棘突起間の外1寸5分
基本穴	***	潤養筋脈	* * * * * * * * * *

2. 湿熱

[症状] 四肢または下肢の軟弱無力或いは運動麻痺が起こる。胸や腹のつかえ、体の重だるさ、患肢の熱感、軽度の浮腫、小便混濁。舌紅苔黄膩、脈濡数または滑数。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
陰陵泉	脾経	清熱利湿	脛骨内側顆の下、脛骨内側の際、陥凹部
内庭	胃経		足背にあり、第2中足指節関節の前、外側陥凹部
基本穴	***	通利筋脈	* * * * * * * * * *

3. 脾胃虚弱

[症状] 四肢軟弱無力、日に日に悪化。筋肉の萎縮。食欲不振、腹脹、泥状便、顔色に精彩がなく、呼吸が浅い、精神疲労、倦怠感。舌淡胖大苔薄白、脈沈細または沈弱。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
脾兪	膀胱経	健脾益気	第11・12胸椎棘突起間の外1寸5分
胃兪	膀胱経		第12胸椎・第1腰椎棘突起間の外1寸5分
基本穴	***	潤養筋脈	* * * * * * * * * *

4. 肝腎陰虚

[症 状] 次第に上肢や下肢の筋無力あるいは運動麻痺が起こる。長引くと筋肉や骨が痩せる。腰のだるさ、しびれ、拘縮、筋肉のひきつり、めまい、耳鳴り、微熱、咽喉の乾燥感、尿量減少、便は硬い。舌質紅、舌苔少、脈細数。

[処方例]

	経 絡	意 義	取 穴 部 位
肝 兪	膀胱経	補益肝腎	第9・10胸椎棘突起間の外1寸5分
腎 兪	膀胱経	滋陰清熱	第2・3腰椎棘突起間の外1寸5分
懸 鐘	胆 経	補 髓	外果から陽陵泉穴に向かい上3寸
陽陵泉	胆 経	補 筋	膝をたて腓骨頭の前下際
基本穴	***	潤養筋脈	* * * * * * * * * *